



NPO 法人  
 長浜観光ボランティア  
 ガイド協会  
 〒526-0059  
 長浜市元浜町 14-12  
 湖北観光情報センター  
 電話 0749-65-0370  
 発行責任者・馬場智章

鯼の湖会のおもい

1. 真心を込めたおもてなしの心で、お客さまをあたたくお迎えします。
2. 地域の歴史や文化、豊かな自然を温かい人情とともにお客さまにお伝えします。
3. 常に幅広い知識を身につけ、魅力ある文化観光都市長浜の発展につくします。

例年ですと、いよいよ秋の観光シーズンを迎え：と書くところですが、残念ながら今年「コロナ禍の中の秋の訪れ」となりまし

た。地域や国での違いはありますが、世界中が新型コロナウイルスに侵され大変な状況で社会の営みに支障が出ています。ウイルス感

染症は歴史上何度か世界中に蔓延した経緯があり、江戸時代末から明治初期にかけて『ころり』と呼ばれたコレ

ウイズ・コロナを念頭に安全を確保し  
**新しいガイド様式の  
 確立をめざそう**  
 理事長 馬場智章

ラや、大正期の『スペイン風邪』と言われたインフルエンザなどもその一つです。当時も大きな社会問題となり、江戸末期には疫病退散を願う「あまびえ」が話題になったようです。

コロナウイルスに対する予防薬の開発は進んでいると言われていますがその時期は不明であり、当面は「ウイズ・コロナ」としての新しい生活様式を考える必要性が言われています。本会の活動も三月以来七か月に亘りガ

イド活動を休止してきました。コロナの収束が見えないなかで今後の活動方法について議論を重ねてきました。

ガイド活動をより安全に行うため、一部のガイドを休止、三密回避の方式、感染防止の具体策など幅広く検討し実施するうえで、活動再開を決定しました。

今後コロナの問題がどのような経緯を辿るかは誰しもが分かりま

せん。周囲の状況を絶えず注視しながら今後の活動を進めたいと考えます。

私たち一人ひとりには「ボランティアでガイドをしたい」との熱い思いで会を形成し、その長浜観光ボランティアガイド協会は『観光ガイドをします』の看板を掲げて三十六年、歴史と実績を誇る団体です。ウイズ・コロナの状況下で新しいガイド様式を、皆さまと共に考え確立しましょう。

新入勧誘にご協力ください

秋本番、巷では稲穂の収穫時期です。当協会のガイド活動はコロナ禍により三月から九月まで七か月休止していましたが、再三の運営委員会での検討により、再開に当たっては私たちの安全を第一とし出来る限りの感染予防対策をして、個人の活動判断を尊重するとして十月より再開することになりました。

新入会員募集活動につきましては、『ながはま社協だより』7月号、長浜市の『広報ながはま』8月号に募集の掲載をさせて頂きました。長浜城歴史博物館が昭和五八年四月、総工費十一億円のうち四億円余りの市民の浄財を得て開館し、翌年に三十七名で長浜観光ボランティアガイド協会が県下でいち早く組織され、オリンピックの聖火のように火を絶やすことなく継続運営されています。コロナ禍でガイド養成講座等を行うことが出来ず、九月に、体験入会申込書として観光ボランティアガイド募集のチラシを会員の皆さまに配布させて頂きましたので勧誘のご協力をお願いいたします。

こんな方がおられますがご紹介してください。V G ルールに沿って対応させて頂きます。まずは、総務（財務・広報担当）へご連絡ください。（大橋義民）

JRふれあいハイキング 2020

10・24  
国友鉄砲の里

11・11  
秋の竹生島

12・5  
冬の竹生島

次期企画の提案を募集!

今秋企画にご参加を

会員の皆様には、お世話になりありがとうございます。いよいよ、10月よりJRハイキングも再開します。まずは、秋コースの紹介から（JRふれあいハイキング冊子掲載予定）

- ①大河ドラマゆかりの国友鉄砲の里へ  
10月24日（土）
- ②満喫！ 秋の竹生島  
11月11日（水）
- ③冬もじっくり竹生島  
12月5日（土）

いずれも、今話題のコースです。不十分ななか、今まで作成された計画を元にしていきます。魅力あるコース、おなじみのコースもあります。皆様の積極的なガイド希望や、研修としての参加をお願いします。なお、研修参加の場合は交通費や入・拝観料はJRハイキング運営規則により自己負担となります。また、参加者の人数制限等もあり、担当永田まで事前に連絡をお願いします。

イベント・体験型、商店・団体と提携

次に、今後の企画に当たって考えていきたい

ことを述べます。

- ①会員の皆さんが、負担なく取り組めるもの
- ②イベントや体験を取り入れたもの
- ③長浜V・G独自の自主的なもの（過去の実績や新企画開発等）
- ④地域の商店や団体等との連携したもの等

皆様の良きアイデアを機会があれば、ご提案ください。

最後に、私も入会以来JRハイキングチームに入り、諸先輩や会員の皆様と共に活動してきました。様々な問題にも直面しましたが、自ら立案、話し合い、下見（資料づくり）を経て、実施。大変ですが、これぞガイド活動の醍醐味と実感しています。

コロナ流行などで、先が見通せないなか、自主企画であるJRハイキングの実施企画に当たっては、かなり困難な面があります。現状のなかに於いては、過去の企画を参考に立案し、今までに携わってこられた会員の皆様の協力・援助を受けながら進めていきたいと思っています。

（永田太一）

八幡神社境内の

「石田神社」

石柱の由来

草野久子

『舩の湖』145号において、「石田三成公と石田町」と題して掲載された記事に続いて、今回は八幡神社に鎮座する石田神社の社標・石柱について述べてみたいと思います。

石田三成公出生地屋敷跡より東南方面に当たるところに八幡神社（古宮神社）があります。建立年代は不詳ですが、石田家の尊崇篤く、戦国時代は戦勝祈願され、石田家の氏神様であったと伝えられています。

私たちガイドは、八幡神社を案内し、裏の石田家供養塔に移動する途中、この境内に石田神社の社標が建てられているのを見たお客様に「あれ、この神社、先ほど八幡神社とガイドさんが説明されたのに、石田神社とも言うんですね」と、必ず尋ねられます。ほとんどのガイドさんは説明に困られ、うなずきながら供養塔へと向かわれますが…。

八幡神社からバス通りに出ると、北側に日吉神社があります。参道から鳥居までのあたりはかつて三成田と呼ばれていて、朝鮮出兵の際、三成が寄進したと伝えられています。



石田神社の石柱（後方は供養所）

# コロナ禍で 慎重に開催 竹生島研修会 30人が聴講

竹生島宝蔵寺の唐門など4棟の修復が7年間にわたり行われこの春完成。これに伴う新しい事実などが発見されました。去る八月二八日に、県・文化財保護課の菅原課長補佐にお願いし研修会を開催しました。

壁や柱の黒漆塗りや金色の飾りなどが復元され、牡丹や鳥の彫刻も色鮮やかによみがえり桃山時代の絢爛豪華な姿が再現されました。今回の修復とともに都久夫須麻神社本殿の建物と観音堂関連4棟の詳細な調査が行われた結果「組物」の構造、彩色の図柄や配色が同じであるなど5棟に共通点があり、当時の文献などから、元は5棟とも、大阪城の極



曳山博物館での竹生島研修会（円内は菅原講師）

楽橋にあった建造物の可能性が極めて高いことが判明しました。従来我々が案内してきた内容を変更または補足する必要があることとなります。詳しくは研修会の時の資料などを参照してください。

## ■今後の研修会予定

- 10月13日 奈良仏教文化と湖北の観音文化
- 10月30日 今年日本文化遺産登録「鉄道遺産」
- 11月19日 ①長浜の街起しの原点  
②江戸時代の近江にあった藩とその大きさ

12月10日 浜仏壇と曳山

（以上4題は長浜城歴史博物館学芸員）

12月4日 県外研修 光秀の城下町 福知山  
皆さん奮って参加してください。  
（磯田 智）

## ■新入会者のお知らせ

北沢繁和（きたざわ・しげかず）さん  
プロフィール 69歳。長浜市南高田町  
在住。職歴は長浜観光協会勤務など。

## ■退会者のお知らせ

鳥居治夫 様  
長い間お疲れさま。ありがとうございます。



石田町の八幡神社境内東

この日吉神社も建立年代は不詳ですが、その昔は、比叡山延暦寺の所領で、土地鎮護神として日吉大神を勧請し、山王権現または十禅師宮と称して祀られ、神仏習合による天台宗系の山王神社と呼ばれていました。明治維新まで観音寺の僧阿闍梨の護持参拝の形跡もあつたと伺っています。

その後、明治元年の神仏分離令により、祭神は仏教色があるとして禁じられ、新たに山王神社となりましたが、明治十四年に神社名「山王神社」が仏教語であるとして地名に因んで「石田神社」と改称され、以後三十年近く石田神社として祀られていました。

しかし、神仏分離以降、石田神社には祭神が存在しなかったことから、大津坂本の日吉神社より大山咋神（オオヤマクイノカミ）を勧請され、明治四十三年、日吉神社と改称されました。

その時の石田神社の社標・石柱の処理について、当時の役員の方々は、八幡神社をいわずれ石田神社に改称したいという思いがあり、八幡神社に移されましたが、許可が下りず、現在に至っているとのことでした。

こうした経緯から、現在八幡神社境内にある石田神社の社標・石柱は、旧石田神社（現日吉神社）の遺産であることがわかります。



## 長浜街絵図の 古の小径

中澤芳一

長浜には江戸時代に描かれた「長浜町絵図」があり、町名や道路、個々の家屋の配置などが分かる。まちの中の道路はその当時とあまり変わっていない。「史跡から史跡を結ぶ古の道」を「長浜町絵図」をたどり昭和時代より以前にタイムスリップしてみたい。

まず、明治一五年に建設された旧長浜駅舎、明治二一年に長浜の豪商浅見又蔵氏によって建設された「慶雲館」から出発する。

北陸本線の線路を横断、東進し、長浜城の外堀であった米川を渡る。「長浜浪漫ヒール」を横目に、舟板堀から「馬つなぎ石」のある吉田家を北国街道へ出る。

「吉川三左衛門屋敷跡」の高札のあるところは、今は長浜幼稚園だが、かつて屋敷は本陣として加賀藩・浴姫などが訪れ、また明治に入ると明治天皇行在所ともなった。その向いの人家には「宝暦三年創業・湊屋」の看板がいまも掲げられている。

北進右折すると右に明治二年創業の醤油製造販売「鍋庄」がある。この店は 山田洋次

監督の映画「男はつらいよ、拝啓軍寅次郎様」の撮影に使われた店でもある。

東進すると、神明神社の鳥居前に着く。長浜八幡神社（現長浜八幡宮）は、源義家が京都・石清水八幡神社から分祀して、現曳山博物館前のあたりの広大な敷地内に別宮して鎮座していたといわれ、秀吉が町づくりのときに八幡神社本殿を現在地に遷した後のこの神明神社が残った。今でも長浜祭りの神輿渡御で神明神社のある八幡町へ立ち寄っていることから繋がりがうかがえる。



ドンドン橋に立つ中澤芳一さん。背後は湖北暮らし案内所。

製で人が渡るとドンドンという音がしたため「ドンドン橋」と呼ばれていた。その北たもとに最近古民家を改修してオープンした「湖北の暮らし案内所ドンドン」がある。

北の暮らし案内所「ドンドン」があるのので立ち寄り、休憩がてら窓から川を眺めれば夏場には小鮎の群れが泳ぎ、冬場は沢山の鴨が戯れるのを見ることがができる。

露地を北へ進み大道に出ると目の前に大きな蔵が現れる。曳山で御堂前山組・諫鼓山を収蔵する山倉で、歴史的風致形成建造物にも指定されている。

山倉を右に見て北進すると大きな築地堀のある浄土真宗長浜別院大通寺（通称ご坊さん）に突き当たる。左手には滋賀県内寺院最大の山門があるが、ここから境内をのぞみ建物を紹介する。

町絵図に描かれている道にそって、ここまですべて約一時間、約一七キロの行程である。

さらに駅前通りを横切り大手町通りに出ると、右に大きな店構の書店文泉堂がある。東進し元カメラ屋脇の露地に入る。この露地は曳山祭りに宮町通りで狂言が執行されるときの迂回路としてできたといわれている。宮町通りを横切り露地を北へ進む。米川に架かる細い橋を渡る。昭和の中頃までは、木

長浜観光ボランティアガイド協会会報  
「鮎の湖」 第一四八号  
令和二年十月一日発行  
発行人・馬場智章／編集人・山崎喜世雄  
発行所・NPO法人長浜観光ボランティアガイド協会  
長浜市元浜町14・12 四居家内